

1 自己評価及び外部評価結果(1階)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100012		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海(株)		
事業所名	愛の家グループホーム中西郷 1階		
所在地	岐阜市中西郷1-71-1		
自己評価作成日	平成21年8月7日	評価結果市町村受理日	平成21年9月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2190100012&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成21年9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の希望に応える外出の機会を多く設けるようにしています。また、女性の職員が多く、利用者にとって一番の楽しみである食事が美味しいと褒めていただく事が多いのが自慢できる点です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

若い管理者の下に、若手、中堅、ベテランの職員がほど良く配置されており、職員の離職が少ないこともあって安定的なホーム運営が可能となっている。利用者の高齢化や要介護度の進行に加え、車いす利用者も増えていることから、今後はケアの方針や内容が大きく変わってくることが予想される。重度化や終末期対応、外出支援等は、大きな課題となつてこよう。しかし、職員総意で作成した理念の中の「その人らしく」の言葉通り、個別ケアの実践が問題解決の決め手となる。その第1歩として、「100の気づき」の成果に期待したい。地域との交流には課題を残しているが、地域住民やボランティアを巻き込んだ「すずらん夏祭り」の成功には拍手を送りたい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と共に、事業所独自の理念も、職員全員で考え、地域との関わりを常に意識をしています。	法人の定めた基本方針と整合させたホームの理念を、職員全員で作りに上げている。理念の柱となっている「地域密着」や「利用者の尊厳」が職員にも浸透している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年8月には、すずらん夏祭りを開催して、地域の方にすずらんを知っていただく様に努めています。そこから、顔の繋がりも出て野菜や花をいただいたり、交流が増えてきています。	地域の自治会への加入は認められていないが、地道な取り組みの成果が表れてきた。恒例の「すずらん夏祭り」には、各種のボランティアや地域の住民が多数来場し、盛況を極めた。	昼食には頂きものの魚のすり身を使ったさつま揚げが出た。野菜を持ってくる地域の住民も多い。地域との交流は自然体で深まっている。この流れを大切に育ててほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	すずらん夏祭りや日々の散歩等の際、地域の方と交流をする中で、認知症の方への支援の方法を見ていただき、理解を深めて頂ける様努めています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で伺った意見を、カンファレンスで報告、職員全員が把握しています。又、その意見を日々のサービスに活かせる様努めています。	2ヶ月に1度の定期的な開催であるが、日曜日開催のためか行政担当者の参加がない。また、外部評価との連動も薄い。	ホーム運営の透明性を担保する上でも、行政関係者の会議出席は不可欠となる。地域包括支援センターとの接触が望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の職員の方にも、施設に足を運んでいただいておりますが、こちらからも市役所に足を運んで連携を保つ様に努めています。	管理者(ホーム長)は就任して日が浅いため、積極的に担当者のもとを訪れている。介護保険課だけでなく生活福祉課にも足を運び、担当者との関係構築はできている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人からも身体拘束に関する基準の説明と、マニュアルの設置が義務付けられており、拘束は行っておりません。	法人の指導もあり、職員は正しい知識の下でケアを行っている。昼食時も、窮屈な車いすから普通の椅子への移動を試みていた。昨年まで階段降り口に設置してあった木製の柵が取り除かれていた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人からも高齢者虐待に関する説明と、マニュアルの設置が義務付けられており、職員同士でも色々な形での虐待が行われない様に注意しあっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内に成年後見人制度を利用してみえる利用者様がみえますし、今後も必要な知識は吸収するように努めたいと思います。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には、ゆとりを持って時間を作り、ご家族の質問やお話をゆっくり聴く様にしています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人としては窓口となる電話番号があり、わかりやすく標してあります。又、面会時や日々の関わりの中で、利用者やご家族の要望を少しでも伺えるよう努めています。	家族から、ユニット毎に職員が固定されていることについての弊害が指摘されたため、1日2回の申し送りを合同で行うこととした。職員の勤務体制も、2ユニット間のシャッフル勤務に変更している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人はアンケートなど実施して職員の意見を聞く機会を設けている。管理者は自分自身も現場に入って職員の意見を随時聴く様に努めています。	職員の定着が良く、管理者と共に長期間にわたって勤務している職員が多い。職場には何でも言い易い雰囲気があるが、馴れ合いにはなっていない。	法人の実施するアンケートでは、職員が全て本音を言えるわけではない。法人に届かない「真の声(サイレント・マジョリティー)」を、ホームの運営に活かしていただきたい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の規模が大きいので、全体の平等性も考慮しながら、環境を作る様に改善もなされています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が主催する社内研修もありますが、事業所内での職員による研修など、勉強の機会を随時つくっています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネットワークに参加したり、近隣の施設との交流も大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者様自身の話を少しでも多く聴く様にして、職員間での申し送りで情報を共有する様にして、信頼関係の構築に努めています。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居問合せの時点から、ご家族の話も少しでも多く聴く様にして、事前面接でも、ゆとりを持って時間を作り、信頼関係の構築に努めています。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居受付・事前面節の時点で、ご本人や、ご家族の意向を聴き、状態を把握した上で必要な支援をする様に努めています。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>一緒に過ごす時間の中で、距離感も近くなり、立場に強弱は無いように心がけています。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族は「お世話になっているから…」と遠慮しがちですが、対等の立場で話を聴き、共に入居者を支える事を常に頭においています。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>今までに築きあげてきた人間関係を出来る限り維持出来る様に、支援しています。</p>	<p>入居前に住んでいたアパートの関係者が訪ねてきたり、亡くなられた知人の娘さんが訪ねてくる等、家族以外の来訪がある。亡夫の初盆に介護タクシーを利用して帰宅した利用者もいる。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>1階・2階問わず、利用者様同士が行き来出来る様に支援していますし、月に1回は全体で交流をはかる機会を設けています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、利用者様や、その家族との連絡は途切れる事なく、力になれることがあれば出来る限りの支援をする姿勢を持っています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の話をよく聴き、職員間の申し送りにも努め、希望は出来る限り叶えていける様に支援しています。	本人本位のケアを実践するため、「100の気づき」の取り組みが始まった。ほとんどの利用者について、50項目程度の気づきが記入されていた。	100項目が埋まり、正確な分析が加えられ、その情報の下に利用者個々の充実したケアの方向性が打ち出されることに期待したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からも、入居前の生活について聴き、今までの生活を出来る限り大切にしよう努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	半年に一回はアセスメントをとって、一人一人の心身状態の把握に努め、職員間でも情報を共有するようにしています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回は職員会議を開いて、話し合いを行っています。その際、日常的に利用者様やご家族から得た情報も含めて話し、介護に反映させるよう努めています。	利用者、家族の意向の確認、支援の方針、目標設定、ケアの内容等、毎回同じ内容の記述が目立つ。	利用者、家族への聞き取り、職員の意見交換、モニタリングの結果等を加味し、その時々にも最も適切な介護計画の作成が求められる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録やモニタリングで日々の様子を記録に残し、職員間またはご家族にも情報を提供しながら、支援に活かしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況や希望も把握しながら、出来る限りの柔軟な支援を職員側でもしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に行きつけの喫茶店があったり、地元の床屋さんを利用したり、訪問マッサージの先生も近所にみえたりと地域の協力を得ながら支援しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族や利用者様に説明し理解をいただき、地域のかかりつけ医に往診をお願いしています。必要時には随時相談し、受診・往診にて適切な診療が受けられます。	全ての利用者がホームの提携医をかかりつけ医としており、2週間に1度の定期検診(往診)を受けている。専門医への付き添いは家族にお願いしているが、車いす利用者等は職員が同行することも多い。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制の下、週に1回、看護師の訪問があります。その際、些細な事も相談し、かかりつけ医に繋げていくようにしています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も職員が時間のある時には面会に行き、状態を把握するようにしています。また、病院側の関係者とも常に情報交換に努め、適切な退院時期についても話あっています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末については、本人・ご家族の希望、身体状況など色々な要素を考慮した上で最善の対応を心がけていくつもりです。	利用期間が長く、高齢化、重度化が進んでいる利用者もいる。管理者は自身の思いだけでなく、職員の意見も尊重して終末期のケアに臨もうとしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常にマニュアルが手にとれる場所に設置しており、緊急時の対応を職員が日常的に確認しています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元の消防署などの協力も得ながら、定期的に消防訓練を行い、いざと言う時に対応できるように取り組んでいます。	年間2度の防災訓練を行い、そのうちの1回は夜間を想定して実施している。ただ、近隣に民家は少なく、地域住民の参加・協力は少ない。	隣接の障害者施設との合同防災訓練の実施や、お互いの訓練を支援し合うなど、実戦を想定した相互援助の体制づくりも必要であろう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや個人情報の取り扱いについては、入居時にも説明し、職員の入職時やミーティングなどでも守秘義務を徹底しています。	利用者の中には気位の高い人もいますが、誇りを傷つけないように配慮しつつ、他の利用者とは変わらない普通の対応をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプラン作成時には勿論、ご本人の思いを聴く様にしていますが、日常の些細な事に関しても、利用者様が自由に意見を口に出る様な環境を作る様、努力しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを把握し、出来る限りの個別対応に努めています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪については、定期的に理美容サービスが受けられる様に支援しています。行きつけの店で髪染めをする事も、支援しています。服装については、職員の支援のもと、季節にあったものを身につけていただけるようにしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは管理栄養士が作成したものを基に、地域からの頂き物がある時には、それを活かして提供しています。	1階のユニットと比較すると、2階の利用者は要介護度が低いせいもあり、食事の準備や後片付けを手伝っている。厨房内に入り、職員とほぼ同等に働く姿も見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は個々の身体状況を把握した上で見極め、水分量は随時チェックして気候も考慮した上で、健康の維持が出来るだけの摂取量を確保しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、かかりつけ医による定期的な往診と、必要な方には歯科衛生士によるケアをしてもらっています。また、毎日の中では介護職による食後の歯磨きを支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	特に日中は個々の排泄パターンに合わせて、トイレでの排泄を支援し、オムツ着用者はいません。	排泄チェック表を記録し、排泄パターンを把握したうえで、必要に応じてトイレ誘導が行われている。取り組みの成果が現れ、昼間におむつを利用している利用者は皆無である。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については、かかりつけ医や訪問看護師と相談し、食生活や運動など、色々と指導をいただきながら、排便のチェックも毎日行っています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が嫌いで拒否される事が多いのですが、週に2回か3回は入浴して頂けるように、気長に声かけをし、支援しています。	要介護度の進行とともに、1階の利用者は入浴を嫌う傾向が強くなった。反面、2階の利用者はお風呂好きが多く、毎日入浴を楽しむ利用者もいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活ペースを大切に、昼寝や就寝の時間など自由にして頂いています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋は常に手にとって確認できる場所に置いてあり、薬の変更や作用については、変更時に申し送り、把握していくように努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る範囲で役割を持って、生活して頂けるように支援しています。タバコなどの嗜好品も体調に問題が無い限りは自由にしていただいていますし、外出等の個別支援も出来る限りして気分転換していただいています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の個別支援は天候や体調など、色々な条件を考慮した上で、常時行っています。お墓参りなど日常的には行かない場所についても、ご家族の支援のもと外出される場面もあります。	前回の家族アンケートと比較して、評価が下がった項目である。これまでは職員の自家用車で自由に外出できたが、法人の規則により社有車以外の使用が認められなくなったことが影響しているようである。	法人の規則は遵守しなければならぬ。とすれば、現在の条件下で可能となる外出支援の限界を、家族に理解してもらうことが肝要となる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理については、ご家族とも相談の上、本人が管理し、使える環境があります。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望時に、ご家族や大切な方々との電話を繋げたり、お手紙を代筆したり、自由にやり取りが出来る様に支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、快適なものであるように配慮し、利用者様が作った貼り絵などの作品を、季節ごとに飾るなど、季節を感じる環境づくりにも努めています。	利用者が最も多くの時間を過ごす食堂兼居間は、南面に大きく窓をとり採光は十分である。トイレ、廊下に至るまで、掃除が行き届いており、清潔で気持ちがいい。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の南窓際に椅子を設置しており、外の景色を眺めながら、くつろげる空間が、ささやかながらもあります。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具などをお持ちいただき、自由に自分の空間を作って頂ける様にしています。	2名の男性利用者は、競うように居室を花で飾っている。1名は造花が壁面を覆い尽くしており、もう1名は増加に加え生の花や観葉植物を持ち込んでいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、居室・トイレ・浴室など、わかりやすく標してあります。		

1 自己評価及び外部評価結果(2階)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100012		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海(株)		
事業所名	愛の家グループホーム中西郷 2階		
所在地	岐阜市中西郷1-71-1		
自己評価作成日	平成21年8月7日	評価結果市町村受理日	平成21年9月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaiqosip/infomationPublic.do?JCD=2190100012&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成21年9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の希望に応える外出の機会を多く設けるようにしています。また、女性の職員が多く、利用者にとって一番の楽しみである食事が美味しいと褒めていただく事が多いのが自慢できる点です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と共に、事業所独自の理念も、職員全員で考え、地域との関わりを常に意識をしています。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年8月には、すずらん夏祭りを開催して、地域の方にすずらんを知っていただく様に努めています。そこから、顔の繋がりも出来て野菜や花をいただいたり、交流が増えてきています。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	すずらん夏祭りや日々の散歩等の際、地域の方と交流をする中で、認知症の方への支援の方法を見ていただき、理解を深めて頂ける様努めています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で伺った意見を、カンファレンスで報告、職員全員が把握しています。又、その意見を日々のサービスに活かせる様努めています。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の職員の方にも、施設に足を運んでいただいておりますが、こちらからも市役所に足を運んで連携を保つ様に努めています。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人からも身体拘束に関する基準の説明と、マニュアルの設置が義務付けられており、拘束は行っておりません。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人からも高齢者虐待に関する説明と、マニュアルの設置が義務付けられており、職員同士でも色々な形での虐待が行われない様に注意しあっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内に成年後見人制度を利用してみえる利用者様がみえますし、今後も必要な知識は吸収するように努めたいと思います。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には、ゆとりを持って時間を作り、ご家族の質問やお話をゆっくり聴く様になっています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人としては窓口となる電話番号があり、わかりやすく標してあります。又、面会時や日々の関わりの中で、利用者やご家族の要望を少しでも伺えるよう努めています。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人はアンケートなど実施して職員の意見を聞く機会を設けている。管理者は自分自身も現場に入って職員の意見を随時聴く様に努めています。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の規模が大きいので、全体の平等性も考慮しながら、環境を作る様に改善もなされています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が主催する社内研修もありますが、事業所内での職員による研修など、勉強の機会を随時つくっています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネットワークに参加したり、近隣の施設との交流も大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様自身の話を少しでも多く聴く様にし、職員間での申し送りで情報を共有する様にして、信頼関係の構築に努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居問合せの時点から、ご家族の話も少しでも多く聴く様にして、事前面接でも、ゆとりを持って時間を作り、信頼関係の構築に努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居受付・事前面節の時点で、ご本人や、ご家族の意向を聴き、状態を把握した上で必要な支援をする様に努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす時間の中で、距離感も近くなり、立場に強弱は無いように心がけています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は「お世話になっているから…」と遠慮しがちですが、対等の立場で話を聴き、共に入居者を支える事を常に頭においています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までに築きあげてきた人間関係を出来る限り維持出来る様に、支援しています。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1階・2階問わず、利用者様同士が行き来出来る様に支援していますし、月に1回は全体で交流をはかる機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、利用者様や、その家族との連絡は途切れる事なく、力になれることがあれば出来る限りの支援をする姿勢を持っています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の話をよく聴き、職員間の申し送りにも努め、希望は出来る限り叶えていける様に支援しています。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からも、入居前の生活について聴き、今までの生活を出来る限り大切にしよう努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	半年に一回はアセスメントをとって、一人一人の心身状態の把握に努め、職員間でも情報を共有するようにしています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回は職員会議を開いて、話し合いを行っています。その際、日常的に利用者様やご家族から得た情報も含めて話し、介護に反映させるよう努めています。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録やモニタリングで日々の様子を記録に残し、職員間またはご家族にも情報を提供しながら、支援に活かしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況や希望も把握しながら、出来る限りの柔軟な支援を職員側でもしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に行きつけの喫茶店があったり、地元の床屋さんを利用したり、訪問マッサージの先生も近所にみえたりと地域の協力を得ながら支援しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族や利用者様に説明し理解をいただき、地域のかかりつけ医に往診をお願いしています。必要時には随時相談し、受診・往診にて適切な診療が受けられます。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制の下、週に1回、看護師の訪問があります。その際、些細な事も相談し、かかりつけ医に繋げていくようにしています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も職員が時間のある時には面会に行き、状態を把握するようにしています。また、病院側の関係者とも常に情報交換に努め、適切な退院時期についても話あっています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末については、本人・ご家族の希望、身体状況など色々な要素を考慮した上で最善の対応を心がけていくつもりです。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常にマニュアルが手にとれる場所に設置しており、緊急時の対応を職員が日常的に確認しています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元の消防署などの協力も得ながら、定期的に消防訓練を行い、いざと言う時に対応できる様に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや個人情報の取り扱いについては、入居時にも説明し、職員の入職時やミーティングなどでも守秘義務を徹底しています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプラン作成時には勿論、ご本人の思いを聴く様にしていますが、日常の些細な事に関しても、利用者様が自由に意見を口に出る様な環境を作る様、努力しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを把握し、出来る限りの個別対応に努めています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪については、定期的に理美容サービスが受けられる様に支援しています。行きつけの店で髪染めをする事も、支援しています。服装については、職員の支援のもと、季節にあったものを身につけていただけるようにしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは管理栄養士が作成したものを基に、地域からの頂き物がある時には、それを活かして提供しています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は個々の身体状況を把握した上で見極め、水分量は随時チェックして気候も考慮した上で、健康の維持が出来るだけの摂取量を確保しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、かかりつけ医による定期的な往診と、必要な方には歯科衛生士によるケアをしてもらっています。また、毎日の中では介護職による食後の歯磨きを支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	特に日中は個々の排泄パターンに合わせて、トイレでの排泄を支援し、オムツ着用者はいません。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については、かかりつけ医や訪問看護師と相談し、食生活や運動など、色々と指導をいただきながら、排便のチェックも毎日行っています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が好きな方が多いので、希望時は入浴して頂けるように支援しています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活ペースを大切に、昼寝や就寝の時間など自由にして頂いています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋は常に手にとって確認できる場所に置いてあり、薬の変更や作用については、変更時に申し送り、把握していくように努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る範囲で役割を持って、生活して頂けるように支援しています。タバコなどの嗜好品も体調に問題が無い限りは自由にしていただいていますし、外出等の個別支援も出来る限りして気分転換していただいています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出好きな方が多いので、喫茶店や買い物など希望時には出来る限り対応しています。お墓参りなど日常的には行かない場所についても、ご家族や職員の支援のもと外出される場面があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理については、ご家族とも相談の上、本人が管理し、使える環境があります。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望時に、ご家族や大切な方々との電話を繋げたり、お手紙を代筆したり、自由にやり取りが出来る様に支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、快適なものであるように配慮し、利用者様が作った貼り絵などの作品を、季節ごとに飾るなど、季節を感じる環境づくりにも努めています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の南窓際に椅子を設置しており、外の景色を眺めながら、くつろげる空間が、ささやかながらもあります。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具などをお持ちいただき、居室内の装飾も自由に自分の空間を作って頂ける様にしています。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、居室・トイレ・浴室など、わかりやすく標してあります。		